

**日本貨物鉄道株式会社
第3回、第4回社債(一般担保付)(グリーンボンド)**

**レポーティング
(2025年5月末時点)**

日本貨物鉄道第3回、第4回社債（一般担保付）（グリーンボンド） プロジェクト概要及び資金充当にかかるレポーティング（2025年5月末時点）

適格事業の概要		資金充当状況
	東京レールゲートEAST （クリーン輸送・グリーンビルディング）	全額既充当：40億円 ※全額リファイナンス
	東京貨物ターミナル駅構内に位置するマルチテナント型物流施設となり、陸・海・空の結節点という絶好の立地条件を生かして新たな鉄道輸送需要を創出し、CO ₂ 削減に貢献します。	
	電気機関車の新製 （クリーン輸送）	全額既充当：29億円
	電気機関車を新製し、老朽化した旧形式機関車の取替を行うことで、安定輸送を確保するとともに貨物輸送サービスの向上を図ります。	
	線路設備の老朽取替 （クリーン輸送）	全額既充当：12億円
	老朽化した線路設備や構造物等の更新・延命化を図ることで、保安度向上及び安定輸送の確保し、かつメンテナンスコストの削減を図ります。	
	仙台貨物ターミナル駅移転工事 （クリーン輸送）	全額既充当：18億円
	既存の老朽設備を更新するとともに、効率性の高いE&S方式*の駅として整備いたします。これにより入換作業が簡略化され、コスト・CO ₂ 排出を削減するとともに、大幅なリードタイム短縮が可能となります。	
合計		全額既充当：100億円

*E&S方式（着発線荷役）：着発線上に荷役ホームがあり、列車が駅に到着した直後に荷役作業を開始し、そのまま発車できる方式です。

日本貨物鉄道第3回、第4回社債（一般担保付）（グリーンボンド） 環境改善効果にかかるレポーティング（2025年5月末時点）

適格事業の概要	インパクト
東京レールゲートEAST （クリーン輸送・グリーンビルディング）	・BELS評価5つ星を獲得 ・CASBEE Aランクを獲得
電気機関車の新製 線路設備の老朽取替 仙台貨物ターミナル駅移転工事 （クリーン輸送）	・貨物輸送量1トンキロ当たりのCO2排出量 : 20g-CO2/トンkm（2022年度）

CO2排出量は営業用トラックの

約10分の1

貨物鉄道輸送のCO2 排出原単位は
営業用トラックの約10分の1
（2022年度）であり、環境にやさ
しい輸送機関として注目されている

貨物鉄道輸送の**CO2削減効果**は

3,332,000t-co2/年

貨物鉄道輸送が担う年間の輸送トンキロ
をすべて営業用トラックで運んだ場合と
比較して、3,332,000t-CO2/年（2022
年度実績）の削減効果がある

スギ林のCO2吸収効果に換算(※)すると

**東京都の約1.72倍の面積
（約378,000ha）**

※3,332,000t-CO2 の排出削減（CO2 固定吸収）を
植林活動を通じて行う場合の森林面積。
林野庁ホームページより、40 年生のスギが1haに
1000本立木していると仮定して計算

【ご参考】日本貨物鉄道第3回、第4回社債（一般担保付）（グリーンボンド）発行概要

社債名称	日本貨物鉄道株式会社 第3回社債 （一般担保付） （グリーンボンド）	日本貨物鉄道株式会社 第4回社債 （一般担保付） （グリーンボンド）
発行年限	10年	20年
発行金額	50億円	50億円
利率	年 0.761%	年 1.370%
払込日	2023年6月15日	
債券格付	AA-(R&I)、AA(JCR)	
主幹事証券会社	野村證券、みずほ証券、三菱UFJモルガン・スタンレー証券	
資金使途	機関車新製、鉄道施設の老朽取替、仙台貨物ターミナル駅移転工事にかかる設備資金及び東京レールゲート EAST にかかるリファイナンス資金	
グリーンボンドとしての適格性	グリーンボンド・フレームワークに対する第三者評価としてJCRより「JCRグリーンボンド・フレームワーク評価」の最上位評価である「Green 1(F)」の評価を取得	